

都市再生整備計画 事後評価シート
滝宮地区

平成27年 3月

香川県綾川町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	香川県		市町村名	綾川町		地区名	滝宮地区		面積	73ha			
交付期間	平成24年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	406.9百万円	国費率	39.94%				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業(町道萱原本線、駅前広場)、地域生活基盤施設(自転車駐車場)、高質空間形成施設(植栽、ストリートファニチャー、歩道照明、視覚障害者誘導ブロック、歩行者用シェルター)										
		提案事業	まちづくり活動推進事業(路線バス等実験運行)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業											
		提案事業											
新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(歩行者用シェルター)		地域公共交通会議が策定した「綾川町交通結節機能強化計画」において、快適な歩行環境の整備が掲げられたことにより追加				影響なし					
交付期間の変更	当初			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	乗降客数	人/日	0	H23	1,282	H26	845	995	△	あり	新駅へのアクセスや鉄道自体の利便性向上から乗降客数の目標値を設定したが、クリアすることができなかった。しかし、H26.6月以降は、1日の乗降客数が1,000人を超える月が続いており、ことடன்等平線全線における鉄道利用者の増加に大きな効果があったことは評価できる。	平成27年5月
											なし		
指標2	コミュニティバス等利用者数	人/便	1.8	H22	3.0	H26		1.5	×	あり	路線バス(坂出駅～綾川駅)における実証実験とは別に、県が空港リムジンバス(丸亀駅～坂出駅～綾川駅～高松空港)の実証実験を行なったことにより、利用客が分散したこと、コミュニティバスの再編が遅れていることなどから目標を達成することができなかった。しかし、今まで公共交通機関のなかった周辺都市部と、新駅を新たな路線バスで結んだことにより、駅の結節機能の向上には効果があったと考えられる。	平成28年4月	
										なし			
指標3	人口増加率	%	-	H23	1.5	H26		9.6	○	あり	公共施設や医療・福祉施設、大型商業施設などの集積が見られ、人口も増加傾向にあった地区ではあるが、新駅、駅前広場及び町道整備により、この地区への関心度が非常に高まっており、新たな宅地開発の動きも見られるなど、新駅を中心としたまちづくりが評価されたものと考えられる。	平成27年4月	
										なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み				
	その他の数値指標1	乗降客数(新駅を挟む既存駅を加えた3駅の合計)	人/日	2,082	H25				2,344				駅前広場及び町道整備によって、駅へのアクセスや交通の結節機能が強化され、パークアンドライドやキスアンドライドなどにも利用しやすい駅となったことから、鉄道利用者数の増加に大きな効果があったと考えられる。
その他の数値指標2	路線バスの日祝日利用者数	人/便	-	H24				2.5			周辺都市部から、大型商業施設へのアクセスとして利用されており、まちの賑わいの創出に効果があったと考えられる。		
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新駅周辺において、宅地開発の動きが活発化するとともに、地区住民からも、今後のまちづくりに対する期待の声が聞かれるようになるなど、新たなまちづくりに対する機運が高まった。 ・新駅では、月に一度、ボランティアによる清掃活動が行なわれるようになり、住民のまちづくり活動に対する意欲の向上がみられるようになった。 												
5) 実施過程の評価	実施状況												
	今後の対応方針等												
	モニタリング	高松平電気鉄道(株)からのデータ収集によるモニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた				● 年4回程度、データ収集により確認する。					
	住民参加プロセス	綾川町地域公共交通会議		都市再生整備計画に記載し、実施できなかった				● コミュニティバス及び路線バスについては、今後も住民等の意見を聞きながら、持続可能な効率的な運行と利便性の向上に努める。					
持続的なまちづくり体制の構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた										
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

様式2-2 地区の概要

滝宮地区(香川県綾川町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 新駅を拠点施設とした、利便性・快適性に優れた居住空間を創出することにより、定住化の促進を図るとともに、駅に集う人々によって活力と賑わいのあるまちづくりを目指す (目標1) 鉄道乗換利便性や運行頻度の向上、コミュニティバスなどとの接続により、町内外の交通結節点としての機能強化を図る (目標2) 新駅周辺の道路を始めとしたインフラ整備を行うことで、新たな居住空間の創出を図る	乗降客数	単位:人/日	-	H23	1,282	H26	995	H26
	コミュニティバス等利用者数	単位:人/便	1.8	H22	3.0	H26	1.5	H26
	人口増加率	単位:%	-	H23	1.5	H26	9.6	H26



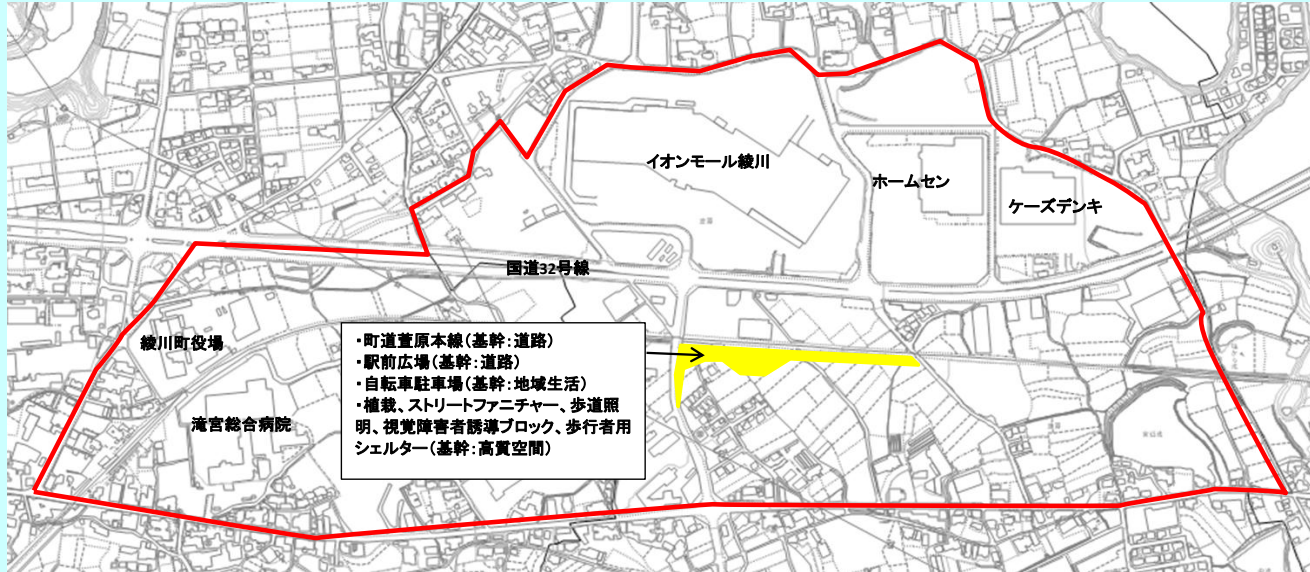
町道萱原本線



駅前広場



自転車駐車場



歩行者用シェルター



路線バス実験運行

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・新駅、駅前広場、町道の整備により、地区の利便性が大きく向上したことで、周辺では早くも民間企業による宅地開発の動きがみられる。こうした中、駅前の一部だけではなく、地区全体の開発、まちづくりについての取り組みを進めていく必要が生じた。 ・月極駐車場の確保は行ったが、特定の日だけ駐車場を利用したいというニーズも生じている。 ・駅前の交通量が増加したことで、周辺の道路環境を整備していく必要が生じた。(歩道整備、拡幅など)
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープランに基づいた、秩序ある開発指導により、駅前の一部だけが開発されることのないよう努める。 ・鉄道の運行頻度向上や終電の時間延長が継続実施できるよう、商業施設と鉄道事業者とのタイアップなども促進しつつ、新たな利用者の獲得を目指した宅地誘導などに、行政としても積極的な施策を展開していく。 ・地元から愛される駅となるよう、駅の景観づくりなどへの積極的な参加を促す。 ・周辺町道の交通量調査等を実施し、安全な歩行環境の確保に努める。 ・周辺商業施設の協力を得て、鉄道利用者のニーズにあった駐車場の確保について検討していく。 ・路線バスについては、町において1年間実証運行を継続し、町内の高校などの施設や有名うどん店などへのアクセスとしても利用できるようなルート変更や、町内外へのPRIに努め、利用者増加を図る。 ・コミュニティバスの路線再編を早期に実施し、周辺部からのアクセス向上に努める。